

『地球市民アカデミア』とは

貧富格差の拡大、地球環境危機の高まり、文化間の摩擦など、私たちを取り巻く状況はますます深刻化しています。そのような状況に対して、私たちは一人の地球市民としてなにができるのでしょうか。「地球市民アカデミア」は、国際協力や身近な地域での活動を通じて世界への働きかけを志す人々のための新しい学びの場です。

<同時代を共に生きる地球市民>

国際協力や開発援助に関する様々な意見がありますが、異なった社会状況の中、厳しい条件の下にある人々と共に生きようとするのは、学問の枠におさまるものではありません。これからの地球社会に求められているのは、国内外で経済社会的に困難な環境におかれている人々を援助や研究の対象として見るのではなく、同時代を共に生きる人間として理解し合い、共感できる力と感性を持った地球市民なのです。

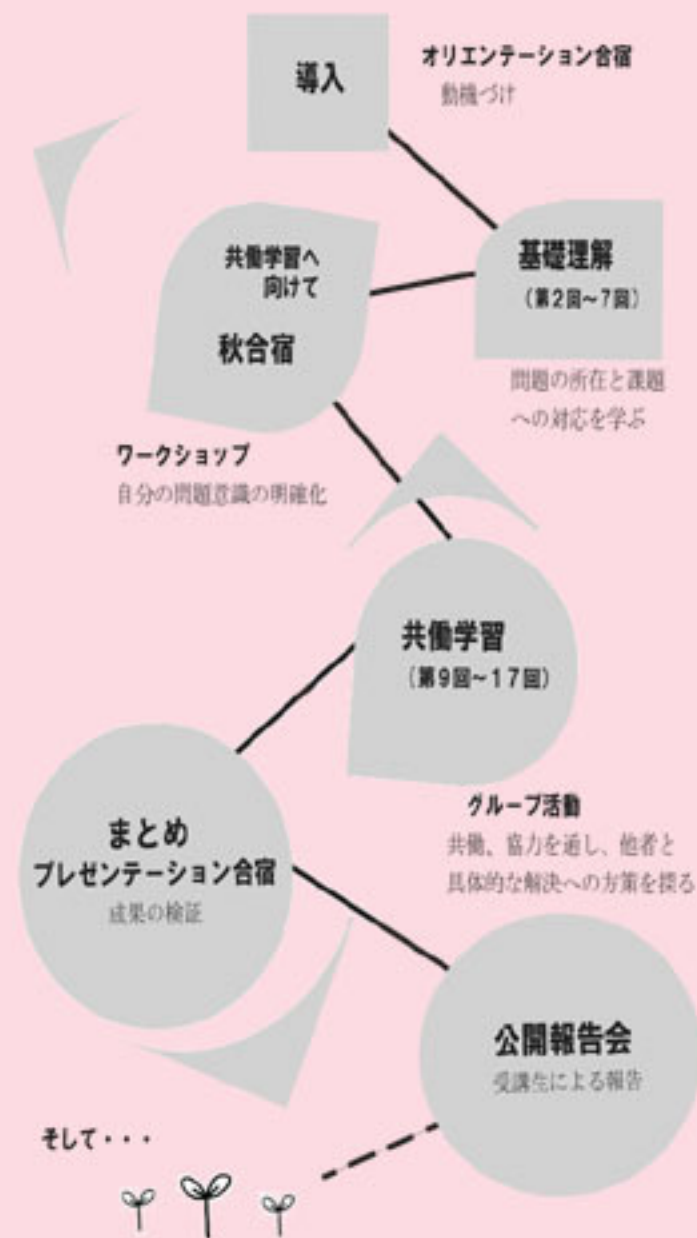
<地球市民アカデミアがめざすもの>

この講座では、将来国際分野や私たちの地域社会での活動を志す者が、現在の社会状況を正しく理解し、必要な知識やものの見方を学ぶと同時に、実際に国際協力や地域活動に携わる人々の経験に学び、活動への訪問などを通じて自ら選んだテーマを追究し、現実感のある学びを創り出します。そして、なぜ国際協力や地域活動が必要と考えるのか、どう関わりたいのか、何ができるのかを深く掘り下げながら、自分自身の価値観を問い直し、これからの社会を創っていく上で大切な他者との協力関係の築き方を学んでいきます。

<共働学習による新しい学びのスタイル>

身近な環境から地球全体までにおける、私たちの持つ思いや理想を実際に行うには知識や情報を身にまとうだけでなく、それらをメッセージやアクションに変えていく必要があります。そのためには、実体験や試行錯誤を通じて、異なる背景や意見を持つ受講生同士が互いに学び合う場が必要となります。「地球市民アカデミア」は、そんな今までにない新しい学びのスタイルを提案しています。

「地球市民アカデミア」の流れ



地球市民アカデミアは今年で14年目を迎えました!

1994年の開講以来これまで400人以上の方が学んできました。地球市民アカデミアでは多数のオプション企画を予定しています(実費負担)。スタディツアー(13期では韓国に行きました)やさまざまなテーマにそったフィールドワーク、修了生たちが企画した自主イベントなど、多くの人と交流する機会が盛りだくさんです。もちろん14期生の皆さんが自主的に企画しても結構です。学びの場としてのアカデミアを是非、最大限に活用してください。



1『オリエンテーション合宿』

『命、文化、環境
～私と地球の上の全てのつながり～』 講師:山崎唯司氏

5月25日(金)夜～27日(日)
於:アジア学院(橋本・那須塩原)
講師:高見敏弘氏【アジア学院創設者/
地球市民アカデミア校長】(予定)
野崎威三氏【アジア学院校長】

「共に生きるために」をモットーに掲げるアジア学院で、農作業や動物の世話、諸外国研修生との交流、地球環境の講座を行います。それらを通して「私と地球市民社会とのつながり」「命」について考えます。



7『いじめ』

～暴力の連鎖を断つために～
9月8日(土)
講師:北村年子氏【ルポライター/
自己尊重トレーニング・トレーナー】

子どもたちだけでなく、私たちの生きる社会にさまざまな形で存在している「いじめ」。その連鎖を引き起こしているものは何なのか。「社会の共犯性」に目を向けるとともに、個々の内なる暴力と自尊感情の関係を「自己尊重ワーク」を通して理解します。

8『秋合宿』

『自分と向き合う
～足もとをみつめて～』
9月22日(土)～23日(日)
講師:石川一喜氏
【拓殖大学国際開発教育センター】

前期の講義を通して私たちは何を感じたのでしょうか?世界にある様々な問題に向き合い、何をしたいのでしょうか?自分の興味・関心に向き合い、自分の足元から何ができるのか、後期の共働学習に向けたグループ作りを通して考えます。



2『国際協力と地球市民社会』

6月2日(土)
【(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)理事】
環境問題、民族対立、貧困といった国内外の開発課題に対し、日本の「市民」はどうしたらいいか?そして市民は「社会」をどのように構築したらいいのでしょうか?講師のNGOでの経験から、ともに考えます。

第14期 地球市民アカデミアカリキュラム

合宿以外の受講日はいずれも
土曜日13:30～17:00です

6『社会起業家』

～スロービジネスから学ぶ～
7月28日(土)
講師:吉岡淳氏【カフェスロー代表】

ビジネスを通じて社会に貢献する社会起業家。近年さまざまな業種、分野で活躍しています。スローをモットーにカフェを起業した講師の思いと体験を通して、新しいビジネスや働き方の創造について共に考えます。

9～17 共働学習

9月29日、10月13日、10月27日、
11月10日、11月17日、12月1日、
12月15日、1月12日、1月26日
(いずれも土曜日)

グループ内での学びを通して、共に協力することを体験します。自分自身のテーマを明らかにした上で、グループごとのテーマを確定し、共働作業に入ります。NGOへの訪問、イベントの企画や国際教育教材の作成など、各グループ独自の活動を展開します。

19 公開報告会 3月

あなたはこの地球市民アカデミアで何を考え、何を学びましたか?仲間たちと共有したことを、今度はあなたの周りの方々へと広げてください。公開報告会は、あなたの得たものを社会と共有するチャンスです。

3『グローバル経済』

～国境を越える問題とその構造～
6月16日(土)
講師:田中優氏
【未来バンク事業組合理事/JP Bank 監事/
日本国際ボランティアセンター(JVC)理事】

グローバル化/自由貿易という名の下に巨大化する多国籍企業。それに伴い、資産の偏りや環境破壊も世界的な問題となっています。具体的な事例を通じてグローバル経済の構造を知り、問題解決への道を探ります。

4『現代社会をどう捉えるか』

～過去との対話を通して～
6月30日(土)
講師:野上元氏【筑波大学助教授】

現代の諸問題はみな何かしらの過去を持っています。「歴史」はどのようにつくられ、どのように私たちの社会や日頃の振る舞いの中に溶け込んでいるのでしょうか。「国家」「メディア」をキーワードに、「歴史」との付き合い方を考えます。

5『貧困』

～「格差」に隠された問題～
7月14日(土)
講師:湯浅誠氏
【NPO法人自立生活サポートセンター・
もやい事務局長/便利屋あうん代表】

豊かな国と言われている日本。「格差」「底上げ」といったことが盛んに議論される中、そこに隠されている貧困の実態は?日本の中にもある貧困問題を通じて、なぜ貧困が生まれるのか、私たちに何ができるかを考えます。

18 プレゼンテーション合宿 ・修了式

2月9日(土)～10日(日)

この合宿では、約9ヶ月間におわたる学びやグループ活動の成果を互いに発表し合い、共有します。今までのあなたとどう変わっているのでしょうか?修了式を経て、地球市民としての次なるステップへとつなげていきます。



受講生の声

10年前、世間では未知でもアカデミアで熱く議論されていた数々の問題が、10年後、今や誰もが知る社会問題となっていた。リサイクル問題も、環境問題も。アカデミアの「先見の明」は実に確かだった。そして、親になった今も、仲間たちのアンテナは私を大きく刺激してくれる。まさに、生涯にわたる学びの場を与えてもらったと思っている。

遠藤妙子 (育児従事者 2期生)

アカデミアは仕事も年齢層も様々、多種多様な人達と自由に議論し、色々な人の考え方が聞ける。私自身も学生時代と考え方が変わった自分を発見することができました。アカデミアは自己発見・再認識の場になるのではないのでしょうか。

鈴木勝 (育林業 5期生)

教員になって十数年、学校を飛び出して、一人の市民として学び、活動してみようとアカデミアへ。誰かに何かを授けてもらうのではなく、自分から仲間を作り、話を聞きたい人に会い、共に一歩を踏み出すことの心地よさと難しさ。18歳の大学生も40代の社会人も「私」に戻って円くなって居る。それがアカデミア!

柏村みね子 (教員 4期生)



豊田真也 (学生 13期生)

国際協力や地球環境などの諸問題は、たまたま人間について、講義とワークや体験を通して、アカデミアならではの世界観が展開されます。世間ではマイナーなことがここではメジャーなこと。同じ時間を共有し、共に考える仲間に出会うために、是非、飛び込んで下さい。

志津安紀 (市役所職員 8期生)

地球市民アカデミアって、どんなところ?

一枚のチラシをきっかけに参加しました。受講生のときも修了生となってからも、大事な出会いをずっといただいています。さらなる「アカデミアつながり」の広がりに期待しています。

北島紗織 (宝楽機関 タイ在住 3期生)

大人になったからこそ、学べる環境を自ら作るの大切気がする。自分の意志で学ぶことほど、楽しいことはない。世の中が見えてくる。すべてがつながっているってことを感じられるようになる。アカデミアはそれを気づかせてくれた場所。

韓朱仙 (NPO法人理事 12期生)

仕事をしているうちに凝り固まってしまったものの見方、生き方などを一旦壊して再構築する機会を与えてくれた場所。講師からはもちろん、受講生や運営委員との関わりの中で気づくことが多かったです。グループで作成した「たばこ」教材は大阪のコンテストで入賞! 現在も教材に改良を加えながら活動中。

杉本伊知郎 (会社員 6期生)

企画・運営 第14期地球市民アカデミア運営委員会

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24 JICA地球ひろば気付 地球市民アカデミア(35) 宛
【TEL】03-6280-8967 【FAX】03-6280-8983
【E-mail】admin@academia-gc.org 【URL】http://academia-gc.org/ (HPからも申込書が入手できます)

～地球市民アカデミアは修了生が企画・運営し
さまざまな団体の協力を得ながら、広いネットワークの中ですすめられています～

協力・後援団体

(進学) アジア学院

アジア・アフリカ諸国からの研修生が、食糧生産の基本、農村生活改善、よりよいコミュニティづくりを、生活体験を通して学んでいく農村指導者養成校です。

(社) 協力隊を育てる会

民間の立場から青年海外協力隊事業への理解を深め、協力隊活動に対する支援の輪を広げることを目的に、情報誌の発行や各地で国際理解セミナー等を行っています。

東京YWCA専門学校

半世紀以上にわたり、社会の中で自立できる人づくりを目指し、実践的な教育を提供しています。社会福祉科は、福祉分野でのパイオニアとして高い評価を得ています。

(特活) 開発教育協会 (DEAR)

公正な地球社会をめざす開発教育を推進するためのネットワーク組織です。国内外の教育の情報収集・発信 (教材づくり)、政策提言、調査研究等を行い、世界と学びの場をつないでいます。

(特活) 国際協力NGOセンター (JANIC)

地球的諸課題に取り組む市民組織NGOの活動支援を目的に、NGOに関する情報収集・提供、広報、調査研究、人材育成、国内外のNGOとのネットワークを進めています。

東京ボランティア・市民活動センター

都内のボランティアやNPOに関する情報提供や相談などを通じて、都民のボランティア・市民活動を支援しています。調査、研修、会議室貸出、活動助成も行っています。



世界につながる学びの場

2007年度 第14期

地球市民アカデミア

21世紀の地球社会
あなたはどうか生きていますか?

第14期生 募集要項

- 開催期間 2007年5月～2008年3月(全19回/合宿3回、公開報告会含む)
- 募集対象
 - ・国際協力やグローバルな問題に関心がある人
 - ・地域社会や身近なところから何かを始めたい人
 - ・原則として全回参加できる人
 - ・18歳以上の人 ・他の受講生と協力しながら受講できる人
- 定員 35名 (先着順)
 - ※定員に達しない場合、開催を中止する事があります
- 参加費用 54,800円(税込) (学生のみ分割払い可 応相談)
 - ・登録費、受講料、資料代、後期グループ活動費等が含まれます
 - ・合宿費用は別途かかります
- 会場 東京YWCA(東京都千代田区神田駿河台1-8)
- 募集締切 2007年4月30日(月)必着
- 申込方法 所定の用紙に必要事項(氏名、住所、電話番号、所属、志望動機)をご記入の上、下記までお送り下さい。E-mail、FAXでの申込みも可。

会場案内図 (東京YWCA)



●お申し込み・お問い合わせ「第14期地球市民アカデミア」事務局
〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24 JICA地球ひろば気付 地球市民アカデミア(35) 宛
【E-mail】admin@academia-gc.org 【URL】http://academia-gc.org/
【TEL】03-6280-8967 【FAX】03-6280-8983